

令和2年度 第2回磐田市障害者施策推進協議会 会議録

【日 時】 令和2年12月15日（火）午後1時～午後2時30分

【会 場】 ひと・ほんの庭にこっと（2階視聴覚室）

【出欠席】

協議会委員（名簿順）

出 席：小木秀市、杉山日出夫、吉村強、山下重仁、匂阪恭子、三輪浜子、松本一男、
清水知子、杉本千佳子、川向雅弘、古木庄吉、柴田七重、吉村康宏

欠 席：浅岡守、鈴木敏弘、千崎隼

事務局：富田福祉課長、丸尾、平野、安間
伊藤こども未来課長、岡田、細谷

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

・第6期磐田市障害福祉計画・第2期磐田市障害児福祉計画（案）について

4. 閉 会

事務局：ただいまから令和2年度第2回磐田市障害者施策推進協議会を開催します。

委員：第6期磐田市障害福祉計画・第2期磐田市障害児福祉計画（案）について説明
委員：第2章の「4. 精神障害者保健福祉手帳所持者の推移」の（1）等級別の状況の中で、自立支援医療受給者数が令和2年3月末現在で2,489人になっている。令和2年度における他の数値の基準日が全て9月末現在なのに、なぜ自立支援医療受給者数だけ令和2年3月末現在なのか。

事務局：現在確認できる自立支援医療受給者数は、令和2年3月末までになる。等級別の手帳所持者数とは半年間のずれはあるが、自立支援医療受給者数に関して大きなずれはないため、参考ということでご理解をいただきたい。

委員：第5章の7「障害福祉サービス、相談支援」の課題解決のための方策の④重度障害者等包括支援について、「対応できる事業者等がないため、新たなサービス利用者の希望に対応できるよう、事業者等の参入の促進を図る」と記載してあるにも関わらず、算定根拠には、「今後も見込みがないため、0と計画値を算定しました。」というのは、矛盾していないか。実際、難病の方で、24時間看護が必要な人がいて困っているが、磐田市では対応が出来ないため、浜松市の事業所をお願いをした。ニーズの把握などはどうしているか。

事務局：計画案に記載のとおり、現在、市内で対応できる事業者はない。促進していきたいと思っているが、現状、参入したいという事業者がいらないため、計画値は、ゼロと算定した。確かに算定根拠の内容がわかりにくいので、「見込みは現状ないが、促進していく」など、分かりやすい表現に変えていきたい。

委員：中東遠圏域で訪問看護ステーションの管理者が集まる会議の中で、学校によっては、9人ほどの医療的ケア児を受け入れている学校もあれば、看護師が在籍していても、受け入れ出来ない学校もあると話しがあつた。その辺の現状をどう把握しているか。

事務局：市内に医療的ケア児を支援する施設はいくつかあるが、学校での受入れはかなり厳しい状況があり、大きな課題と認識している。今後、情報は出せる段階にきたらしっかり出していきたい。学校との関係をしっかり築いていくにあたり、県の教育委員会にも、現状を伝えていきたい。そうした情報をいただきながら、一緒に考えていきたい。

委員：放課後等デイサービスについて、来年度以降の新規の申込みをしても待機になってしまい困るという事がある。利用者数の実績に対し、多いのに計画値が追いついてない状況だと思うが、今後の施設整備において、放課後等デイサービス事業所が増えていくのか、情報があれば教えていただきたい。

事務局：複数の事業者から相談はあるが、認可は県が行う。市は事業者が県に申請を上げる際に、相談に乗るなどの支援を行っている。情報は出せる段階にきたらしっかり出していきたい。

委員：第2章の「1. 障害者手帳所持者数の推移」の中で、身体障害者手帳所持者は五

千人程度だが、身体障害者福祉会などの障害者団体では、若い会員が入らず高齢化が進み、会の存続そのものが非常に危機的な状況にある。他の市町では会が存続出来ないため、解散したところもあると聞いている。磐田市でも、こうした状況を踏まえ、支援体制をもう少し確立していただけるとありがたい。

委員：訪問系サービスの関係で、事業所が一つ減ったというのは、社会福祉協議会が提供していたケアサービスのことである。ヘルパーの募集をかけても集まらないという根本的な理由がある。障害の関係だけでなく、介護保険の訪問介護も、今年度中に閉じざるを得ない状況である。

委員：第5章の1の(3)居住系サービスの現状と課題で、「施設入所支援は、入所待機者も多く、地域移行については、関係事業所等と連携していくことが必要です。」と書かれているが、実績及び見込みでは「入所者数は緩やかに減少しており、基盤整備や国の指針に伴い今後、利用の減少が見込まれることから減少する計画値を算定しました」とある。実績では確かに減少しているが、入所待機者が多い部分がどのように影響しているのか。

事務局：確かに待機の方は多いが、実績では入所は少しずつ減少している。現状、国の指針等から、できるだけ入所から地域へということもあるため、計画では、待機者はいるが、入所者数は少しずつ減っていくと、見込んでいる。

委員：発達障害者関係について、実際に知的障害を伴っている生徒たちは、高等部が上がってくるが、知的障害を伴っていない発達障害の子は、通常学級などでうまく育っている子もいるが、中にはうまく育つことができず、中学校卒業時に、特別支援学校には知的障害でないため入れず、非常に困ってしまう生徒が結構いる。そうした意味で、早期療育、早期教育の要としては、保護者に意識を持ってもらうことが大切だと思う。様々な支援をうまく活用してもらうため、保護者に対する啓蒙が必要であると考えている。

委員：重度の障害者等の包括支援のところ、手を挙げる事業者がないという話があったが、事業所としては、大変厳しい指摘だと感じている。技術や資金面等で不安があると、安全の確保という点で、大変厳しいものである。市として、ソフト面でも事業所が手を挙げるために、どのようなサポートができるのか計画に反映していただきたい。

事務局：重度障害者等の包括支援については、認可は県が行いますので、県とも話をしながら考えていきたい。

委員：虐待に関する相談を受けた事業所や計画相談事業所は大変苦勞している。虐待の相談は非常に難しく、受けた記録などをどう繋げていくか、事業者等にわかる形で、市から示していただきたい。

事務局：虐待の関係は、虐待防止センターがあるので、連携等も含めていろいろと整えていかなければいけないと考える。

委員：地域移行ということが言われているが、現実として、親が亡くなった時などの

対応で、障害者の状態によりグループホームでは対応できない場合がある。こうしたことについて、市としてどのように考えているか。

事務局：8050等の問題でこれから入所者は増えていくと思われる。国の基本指針で、入所を減らしていくというものだが、無理に減らそうとは思っていない。入所でなければ困る人もいるので、無理なく減っていく分にはいいと思っている、今後、事業者だけではなく市も含めて、8050問題を見据えた中で考えていきたい。

事務局：以上をもちまして、令和2年度第2回磐田市障害者施策推進協議会を閉会いたします。

閉会